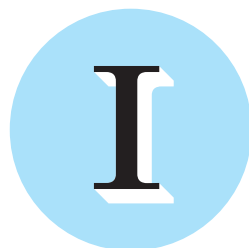


学部編



薬学部概要

3 再試験制度について

薬学科では、専門教育科目（薬学PBL、薬学セミナー、CBL、卒業論文、文献調査、実験・実習および実技を除く）の評価が「F」であった場合、各期再試験を実施します。また追試験においても、同様に再試験を実施します。再試験実施までの日程については、別刷の教務関係事項スケジュール表で確認してください。

★評価が「F」の学生は、全員再試験受験対象者となります。

★再試験の時間割は、各試験の再試験対象者発表前後に、W10号館薬学部掲示板で発表します。

★再試験受験のための手続き

証明書自動発行機から「費用納入証明書」を 1科目につき1枚出力し、試験当日、試験会場に持参してください。

★再試験料は1科目につき3,000円です。

★再試験の評価が「F」または「欠」の場合は、原則としてその科目は次年度再履修となります。ただし、次年度の再履修が不可能な場合、再試験に対する再試験（再々試験）の受験も認められます。

★卒業年度に限り、各期再試験の評価が「F」であった科目は、卒業年次対象再試験制度の対象となります。

（卒業年次対象再試験についてはP. 共通13参照）

4 進級制限制度について

2年次終了までに修得すべき必修科目（共通教育科目及び専門教育科目）の内、6科目以上未修得のときは、3年次に進級することができません。

5 共用試験について

共用試験とは、CBT (Computer-Based Testing) と OSCE (Objective Structured Clinical Examination) から構成される試験です。実務実習を行う前に、この両試験に合格しなければなりません。試験日程は別刷の教務関係事項スケジュール表で確認してください。

【共用試験】

	CBT	OSCE
試験料	30,000円 (CBT体験試験、CBT、OSCE 併せて)	
追再試験料	12,500円	12,500円

CBT：実務実習に必要な知識を持ち合わせていることを確認する、コンピュータを用いた試験です。共用試験センターサーバに保存されている問題が無作為に選ばれ、インターネットを介して各受験生に送付され、それを受験生が解いていく方式で行われます。問題は310問で、10分野（ヒューマンズムとイントロダクション、物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学、健康と環境、薬と疾病「薬理系」、薬と疾病「薬剤系」、薬と疾病「情報系」、薬と社会、実務実習事前学習）から出題されます。

OSCE：実務実習に必要な技能・態度を持ち合わせていることを確認する実技試験です。課題は、提示されている5ステーション「患者・来局者対応」「薬剤の調製（2課題）」「調剤鑑査」「無菌操作」「情報の提供」で、6課題を行います。

6 実務実習について

- (1) 実務実習は学外の医療施設で行う実習です。病院における実習と薬局における実習を各11週間ずつ、合計22週間行います。実務実習では、主に薬剤師として必要な知識、技能、態度を医療現場で学びます。
- (2) 実務実習を履修するためには以下の要件を満たす必要があります。

①共用試験合格

②次の6科目の単位修得

科目名	単位数
薬剤学(3)	1
医療薬学(2)	1
医療薬学(3)	1
医療薬学実習(3)	1
事前実習	4
CBL(3)	1

7 ホワイトコートセレモニーについて

共用試験（CBT と OSCE）および実務実習事前学習の科目を修得した学生は、ホワイトコートセレモニーへの出席を許可され、実務実習参加の認証を受けることができます。セレモニーは、学部長が真新しい白衣とネームプレートを壇上で手渡し、宗教主事が聖書を読み、祈りを捧げることで厳粛かつ整然と行われます。セレモニーの目的は、医療現場にでるためのモチベーションの高揚と倫理・道徳意識の向上、そして医療チームの一員として白衣を着用することの重みと意義について認識させることにあります。

8 薬学総合演習について

原則として、追試験対象となりません。

9 卒業最低修得単位数の詳細

薬学科	
卒業要件	188
共通教育科目	40
キリスト教教育科目	4
総合教育科目 ※以下の5科目10単位を必修 心理学E 法学E 倫理学E コンピュータ操作技法A コンピュータ操作技法B	26
英語教育科目	8
S & E 教育科目	2
専門教育科目	148
基礎科目	16
基幹科目	30
展開科目（必修26単位、選択必修6単位）	32
実習科目	33
演習科目	27
卒業研究	10
自由履修科目	—